夜笛

この子

【人物一覧表】

清野叶星（かなせ）（20）　大学生

月野ひかる（20）　大学生

清水叶星の母（49）

清水叶星の父（53）

清水叶星の妹（15）

月野ひかるの母（50）

【あらすじ】

清野叶星の幼なじみである月野ひかるが突然亡くなった。あまりにも早すぎる彼女との別れを受け止めきれない叶星。ひかるとの思い出と共に半生を振り返り、彼女の生きた証を見つけていく。これは、大切な人の突然の死をどのように受け止め、現実と向き合っていくかを記した物語となる。

【特記事項】

創作活動において、コンクールに初めて挑戦します。今まで自分の思いや考えをぶつけるために行っていた創作活動ですが、私の気持ちを私だけが抱えていることに限界を感じ、共感を求める意味も含めて参加することにしました。

今回の物語は、身近な人の突然死をどのように叶星が受け止めていくかを記したものとなります。私も身近な人が突然亡くなってしまった経験があります。亡くなってしまったら、もうお話することは出来ないし、一緒に写真を残すこともできない。過ぎたことはもう戻らない。しかし、そんな後悔の中でも私は前に進むために光を見いだしたいと思いました。その思いを私は叶星に託します。

今後も創作活動を通して、私とどこかの誰かに共感という光を灯し続けたいです。（本編文字数：三九七四文字）

○畦道（十年前・夜）

叶星・ひかる、手をつなぎ歩く。

ひかる、口笛を吹く。

叶星「ひかるちゃん、夜に口笛吹いちゃダメなんだよ」

ひかる「どうして？」

叶星「お婆ちゃんがおばけさん来るって言ってた」

ひかる「ふうん」

ひかる、叶星から手を離し、走り出す。

叶星「？」

ひかる、振り返り口笛を吹く。

叶星「ちょ、やぁめてよ」

叶星、ひかるを追いかける。

ひかる「おばけさん、こーい！」

叶星「ばか！」

叶星、ひかるに追いつき、口を塞ごうとする。

ひかる「あはは！こわがりさーん」

叶星「このぉ！」

叶星・ひかる、田んぼの中に転倒。

叶星・ひかる「「きゃあっ！」」

叶星・ひかる、泥まみれの姿をお互いに見る。

ひかる「ぷっ」

叶星「ふっ」

叶星・ひかる「「あはははっ！」」

叶星、田んぼにもう一度倒れる。

ひかる、叶星の顔を覗き込む。

ひかるの背中には星空と月が映っている。

ひかる「ねぇ、叶星」

叶星「なぁに？」

ひかる「私たち、ずっと…」

○公園（現代・夕方）

叶星、目をつむっているため、真っ暗な場面から始まる。

スマホのバイブ音。

子供たちの声。

叶星、目を開ける。

子供A「ばいばぁい！」

子供B・C・D「ばいばぁい！」

子供たち、別れの挨拶を交わす。

叶星、酒の空き缶が数本散らばるベンチの上で寝ている。

叶星、子供たちを横目に起き上がる。

叶星「んんっ（咳払い）」

叶星、電話を取る。

叶星「…はい（酒焼け声）」

叶星母の声「ちょっと、やだ、あんた声ひどいわよ」

叶星「（眠そうに）うん」

叶星母の声「あんたいつからお酒飲んだの？」

叶星「いつかな」

叶星母の声「『いつかな』って…」

叶星、空き缶をビニール袋に入れる。

叶星母の声「まぁ、でも、仕方ないわよね…」

叶星母の声「あんた、ひかるちゃんと仲良かったから」

叶星、手を止める。

叶星母の声「明日、ひかるちゃんの家行くんだから、今日帰ってきなさいよ」

叶星「…」

叶星母の声「わかった？」

叶星「わかった」

叶星、通話を切る。

叶星、スマホのロック画面を見つめる。

スマホのロック画面には、叶星・ひかるの高校時代ツーショット。

○電車の中（高校卒業式の帰り・夕方）

叶星（現代）のロック画面写真撮影風景。

ひかる、スマホでツーショットを撮る。

ひかる「いいじゃん！これ、お揃いのロック画面にしよ！」

× × ×

叶星・ひかる、お揃いのロック画面を眺める。

叶星「なんか、もう卒業しちゃったね」

ひかる「ねー、実感ないわぁ」

叶星「…」

叶星、うつむく。

ひかる、叶星の悲しい表情に気づき、叶星の肩を組む。

ひかる「違う大学だけどさ、いつでも会えんだから」

叶星、泣く。

叶星「だってぇ、ひかるんとこまで車で八時間だもん。遠すぎるよぉ」

ひかる「ばっか、私の足をなめるんじゃねっての！陸上部で培った筋肉でひとっとびよ！」

叶星「アホだぁ」

ひかる「言ったなぁぁ」

ひかる、叶星の頭をぐしゃぐしゃにする。

叶星「んふっ、やめてよぉ」

電車が止まる。

電車内の人々が降り、二人だけになる。

ひかる、立ち上がる。

ひかる「ほら、立って」

ひかる、叶星の手を取る。

叶星「えぇ、なになに」

ひかる、スマホでワルツを流す。
叶星・ひかる、拙い社交ダンスを踊り始める。
叶星「えぇ、なにこれぇ。恥ずかしいよぉ」
ひかる「だぁいじょぶだって！この車両には誰もいないし」
ひかるが叶星をエスコートする。
ひかる「はいはい、ずんちゃっちゃっ、ずんちゃっちゃっ」
叶星「あははははっ！なにこれぇ」
叶星・ひかる、夕方の日に照らされ、踊る。
叶星・ひかるの声「「あははははっ」」
○電車の中（現代・夕方）
叶星、ワルツを聞き、小さくステップを踏む。
電車が止まる。

叶星、一人で電車から降りる。

○清野家外観（夜）

叶星の声「ただいま」

○同・清野家玄関

叶星母、台所から頭を出す。

叶星母「おかえり！寝床の準備はもう終わってるから真っ直ぐお風呂行っちゃいなさい」

叶星「はぁい」

叶星父、居間から登場。

叶星父「おう、おかえり。」

叶星「ただいま」

叶星妹、濡れた髪を拭きながら登場。

叶星妹「おかえり…ってくさっ！さっけくさいんだけど」

叶星「うっさい」

叶星父「たしかに、お前、アルコールくせえぞ」

叶星妹「もう、お姉ちゃん、早く風呂入んな」

叶星「あー、ちょっと部屋に荷物置いてくる」

○叶星部屋

叶星、荷物を置き、ベッドに腰を下ろす。

叶星、写真立てを見る。

ひかるとのツーショットが多く飾られている。

叶星「…」

叶星、写真を手に持つ。

叶星「あっ」

叶星、はっとした表情を見せる。

○ひかる家玄関前（夕方）

叶星・叶星母・叶星父・叶星妹、玄関前に立っている。

叶星、スマホのロック画面を眺める。

叶星母、チャイムを押す。

叶星、スマホを鞄にしまう。

ひかる母の声「はい」

叶星母「清野です」

ひかる母の声「あ！今行きますね」

ひかる母の足音が聞こえる。

叶星妹「姉ちゃん、大丈夫？」

叶星「…なにが？」

叶星妹「ううん、なんでもない」

ひかる母、玄関扉開ける。

叶星母「この度はご愁傷様です」

叶星母、頭を下げる。

それに合わせて3人も頭を下げる。

ひかる母「来てくださって、ありがとう

ございます。お忙しいのに、弔問のお誘いしてしまってごめんなさいね」

叶星母「いえいえ！逆にお誘い頂きありがとうございます。家族葬って聞いていたので、親戚の方しかお伺いできないのかと思っていましたから」

ひかる母「本当は親戚だけの訪問にしようと思ってたの。でも、ひかるはきっと叶星ちゃんに会いたいと思って」

ひかる母、叶星を見る。

ひかる母「来てくれてありがとうね」

叶星、会釈をする。

○同・ひかる実家座敷部屋

ひかる母、清野家族をひかるの元へ案内する。

座敷部屋に白布を被ったひかるがいる。

叶星母「線香あげてもよろしいですか？」

ひかる母「ぜひお願いします」

叶星、呆然と立ち尽くす。

その間に叶星母、叶星父、叶星妹の順で線香を上げる。

叶星妹「姉ちゃん」

叶星、はっとする。

叶星、ゆっくりと線香をあげる。

叶星「あの、ひかるの顔見てもいいですか？」

ひかる母「もちろん」

ひかる母、白布を外す。

安らかに眠るひかる。

叶星「（ひかるを見たまま）触ってもいいですか？」

ひかる母「うん、触ってあげて」

叶星、ゆっくり優しくひかるの頬を撫でる。

ひかる母、それを見て泣き始める。

叶星母、ひかる母に寄り添い、抱きしめてあげる。

叶星「…」

○ひかる実家玄関

叶星以外の3人が靴を履き始める。

ひかる母、それを見送る。

叶星「あ、おばさん、これ」

叶星、ひかる母に、ひかるのみが映った写真を渡す。

叶星「私のスマホにひかるの写真がたくさんあって」

叶星「ほんの一部だけど、良ければ」

ひかる母、写真を受け取る。

叶星「まだ沢山あるので、もし欲しかったら言ってください」

ひかる母、写真を抱え泣く。

ひかる母「ありがとう、ありがとう」

叶星、会釈して靴を履こうとする。

ひかる母「あ、待って！」

ひかる母、二階へと向かう。

ひかる母、玄関に戻ってくる。

ひかる母「これ、渡そうと思ってたの」

ひかる母、小さなアルバムを持っている。

アルバム名『二〇歳の叶星へ』

ひかる母「先月、叶星ちゃん、誕生日だったでしょ？ひかるが今度会ったときに渡そうと思ってたみたいなの」

叶星、アルバムを受け取る。

ひかる母「ひかるから直接渡せたら良かったんだけど…。私からでごめんね」

叶星「…いえ、ありがとうございます」

〇清野家への帰り道（夕方）

清野家族一同、帰路を辿っている。

叶星妹「なんか、意外」

叶星「なにが？」

叶星妹「姉ちゃん、泣くと思ったから」

叶星「…そう」

叶星、アルバムの表紙をずっと見つめている。

叶星母・父、叶星の様子を横目で伺う。

叶星母「叶星、私たち、先に行ってるからゆっくり来なさい」

叶星「…うん」

○畦道（夜）

叶星、アルバムの表紙をずっと眺めながら歩いている。

スマホの短いバイブ音が鳴る。

叶星母メール『夕ご飯、冷蔵庫にあるからね』

叶星「え、あ、もうそんな時間」

叶星、帰ろうと振り返るが、畦道の田んぼを見て立ち止まる。

叶星、その場でアルバムを開く。

アルバムの構造：見開き状態で何枚も写真が貼ってある。その写真の近くにひかるがメッセージを残している。

叶星、一〇年前、田んぼに落ちた後、ひかるの親に撮られたと思われる泥まみれの叶星・ひかるのツーショットを見る。

叶星、田んぼに目を向ける。

田んぼには一〇年前の2人の姿が見える。

ひかるのメモをひかるの声によって読み上げる。

ひかるの声「泥まみれで帰った日！めちゃくちゃ親に怒られたね（笑）」

叶星、ゆっくりとページをめくり、他の写真も眺める。

電車で撮ったツーショット。

ひかるの声「お気に入り！今も私の待ち受けだよ」

畦道で高校時代の2人が踊っている。

叶星、ページをめくり進める。

○回想（様々な場面）

ひかる「叶星ちゃん！」

ひかる「叶星！」

ひかる「かなせえ！」

ひかるの声と、昔の思い出が次々と流れる。

ひかるの声「わたしたち、ずっと…」

○畦道（夜・現代）

最後のページ『二○歳の私たち』とだけ記され、写真を貼るスペー

スが空いている。メモ書きには
『二〇歳おめでとう！これから
も、ずっと…』と記されている。
アルバムに叶星の涙が落ちる。

叶星「うっ、あぁっ、あぁあっ、あぁ
ぁぁぁぁぁぁぁぁ」

叶星、アルバムを抱え、泣き崩れ
る。

叶星、畦道の砂利道に頭をつけ、
泣き叫ぶ。

叶星「ひかる、ひかる、ひかる」

叶星、ゆっくりと呼吸を整え、顔
を上げる。

叶星「（電車の中で流したワルツの口笛）」

口笛を吹きながら、踊り始める。
かつてひかると踊っていたときの
ように。

叶星、目の前には二〇歳のひかる
が見える。

二人でワルツを踊る。

叶星、ひかるの幻想に夢中になる
ほど踊り続ける。
叶星、つまずく。
叶星「きゃぁっ」
叶星、田んぼに落ちる。
驚いた叶星の目の前には満点の星
空と月が浮かんでいる。
叶星「ふっ」
叶星「あはははっ！」
叶星、泥まみれになったアルバム
を抱きかかえる。
叶星「ずっと、一緒だ」

（終）